

クラス番号	313	担当教員名	小林 勇人
テーマ	働くことと社会保障の関係に着目し、福祉社会を切り拓く		
著書・論文 研究課題等	著書：2010『アメリカ・モデル福祉国家Ⅰ』（共著）、2012『労働と生存権』（共著）、2012『福祉政治』（共著）、2013『公共性の福祉社会学』（共著）、2014 <i>Basic Income in Japan</i> （共著）、2020『ホームレス経験者が地域で定着できる条件は何か』（共著） 研究課題：欧米の社会保障・労働市場改革の分析と日本への含意		

ゼミナール概要

キーワード：能力主義、所得保障、社会保障、公的扶助、就労支援

1. 社会背景

近年の日本では、少子高齢化に伴う人口減少のなか、健康や生活時間の確保とともに正規雇用と非正規雇用の公正な待遇を目指す「働き方改革」が進められる一方で、高齢者世代だけではなく現役世代への給付を拡充する「全世代型社会保障」への改革が進められています。しかし、未だに過労死の問題がニュースで報じられるとともに、育児休業や介護休業の取得率は低く、育児・介護の負担は重いまま格差が広がりつつあります。

戦後の福祉国家では、「夫である男性が勤め人として賃労働を行い／妻である女性が主婦として無償でケア労働を行う」という「男性稼ぎ主／女性ケアラー」モデルを核として、生活を保障する制度が形成されてきました。特に日本では、雇用保障が社会保障を代替し、男性正規雇用の世帯を中心に社会保障が形成されたため、非正規雇用や共働き、一人親の世帯に対して社会保障が十分に機能していません。雇用や家族の不安定化が進むなか、社会保障の持つ重要性が増しており、所得保障や育児・介護サービスの拡充が求められています。

2. 目的・内容・方法

本ゼミの目的は、労働問題、貧困問題、育児・介護などの問題に対して、個人の「自己責任」に還元するのではなく、社会がどのように応答して人々のニーズを充足していくのかを考えることです。ゼミの内容は、「労働と社会保障」に関わることであれば柔軟に対応できるので、皆さんの関心に応じて多岐にわたると思いますが、主に制度・政策分析という方法からアプローチします。たとえば、医療や年金だけではなく、育児休業や介護休業と関わる雇用保険、過労死と関わる労災保険、育児・介護などの福祉サービス、生活保護などの分析を通して、働きやすく暮らしやすい社会にするための政策について分析を提案していきます。

（労働）能力の有る・無し・高い・低いによって、受け取ることができるものや生活のあり方、さらには存在価値にまで差が生じるのは、おかしいんじゃないか？ そんな問題意識のある人を歓迎します。

3. 授業計画

（3年生）

前期：各自の研究関心を基にグループ化 → グループで文献研究・発表 + ディスカッション
 → 基本的な概念や理論を習得 → 個人で研究テーマの選択 → 小レポート（A4二枚）

後期：個人で発表 + ディスカッション → 研究テーマの具体化・深化 → 中レポート（A4五枚程度）

（4年生）

前期：公務員試験や就職活動など各自の状況に柔軟に合わせながら（希望に応じて試験対策・面接対策を実施）、中レポートを膨らませて卒業論文に近づけます。

後期：卒業論文を完成させ、政策提案の方法を考えます（希望に応じて社会福祉士国家試験の対策を実施）。

担当教員からのメッセージ

私は能力主義に問題意識をもちながら日米の公的扶助政策を研究してきました (<http://workfare.info/>)。

制度・政策分析ときくと難しく感じる人もいるかもしれませんが、社会の「仕組み」について考える力を養うことは、公務員をはじめ将来どの分野で働く場合でも多めに役立ちます。特に3年生の最後に提出する中レポートは、公務員試験・面接や就職活動に役立ったと先輩たちには好評です。ゼミでは問題意識が重要になるので、エントリーシートで、（1）関心のある社会問題、（2）関心のある制度・政策、を具体的に書いてください。

大学生活においてゼミでの2年間は、真剣に学問を学ぶ刺激的な時間と、大切な仲間に出会う機会を提供してくれます。楽しいゼミにしていきたいと思います！